

更新日：2022年7月1日



Dog Dance Japan 規程書

— 無断で複製・転載することを禁止します —



目次

Dog Dance Japan 規定

Dog Dance Japan 一般規定	3
個人情報の取り扱い.....	4
その他 FCI 国際ドッグダンス競技会規程との相違・補足.....	5
DDJP 新設クラスについて (2022/5)	5
DDJP クラス分けについて (2022/6/1)	6
1.3.7 発情中および妊娠中の雌犬	6
1.3.8 外観の変化.....	6
1.6 犬の装飾品と小道具.....	6
3.1.5 犬のリング入退場.....	7
3.2 失格	7
3.3.5 「個人」戦における同点	7

FCI 国際ドッグダンス競技会規程



Dog Dance Japan 規程

Dog Dance Japan は、
犬と一緒に楽しんで参加できるスポーツとしてのドッグダンスを目指します。

ドッグダンスは熟練した犬のムーヴやトリックを組み合わせ、音楽に乗せて犬とハンドラーとの
チームワークを披露し、観客を魅了するものでありたいと考えます。

Dog Dance Japan が開催する競技会はFCI国際ドッグダンス競技会規定に準じます。
不確かなことについてはFCI規定が優先されます。

また、参加者は Dog Dance Japan が開催するイベントすべてに於いて、以下にあるような良識
ある行動・言動をお願いいたします。

Dog Dance Japan 一般規定

- a. 全ての犬は出場者の自己の責任において出場すること。Dog Dance Japan（以下 DDJP）は
犬、又は出場者のいかなる損傷に対しても責任を問われることはない。
- b. 犬の健康と福祉が守られていないと判断した場合は、参加を拒否することがある。
- c. 国の法律に適合しているすべての犬種が参加できる。
- d. 他の人・犬等に攻撃性のある犬、伝染性の病気に罹患 または 保菌している犬は参加できない。
- e. 決められた場所以外ではリード（引き綱）を着用のこと。
- f. 入金の確認をもって正式な受付とする。
- g. 本人の都合によるキャンセルにおいて、一旦入金された申込金は返金されない。
- h. DDJP は大会のスケジュール・ランニングオーダー・成績を発表する。
- i. リングのサイズやジャッジの座る位置については、競技会の2週間前までに参加者に通達する。
- j. 出場する犬は大会当日の時点で、最低月齢 18 ヶ月と 1 日であること。
Beginner クラス・Starter クラスについては、最低月齢 9 ヶ月と 1 日であること。
- k. 一回申し込んだ後でのハンドラーの交代は出来ない。
- l. ひとつのクラスのエントリー数が 20 を超える場合には、均等に分割して休憩を入れる。
- m. リング内に食べ物、おもちゃ等のご褒美、訓練用具を持ち込んだり、与えてはいけない。
(Starter クラス・Fun クラスを除く)

- n. 演技を行う犬の動きは自然で、且つ、安全であること。（犬にとって不自然な動き、有害なムーヴは禁止）
- o. 競技を棄権したり、途中でやめることはできるが、採点された後でその競技の取り消しはできない。
- p. 1回の競技会において同じ犬が同じクラスに2回エントリーすることはできない。
- q. コンペクラスにおいて、1度リングに入場したら、その後は一切の練習はできない。また、ホワイエに戻ることもできない。
- r. クラス分けは自己申告制とする。
（参照 P5「DDJP 新設クラスについて」 P6「DDJP クラス分けについて」）
- s. ジャッジの判定に抗議・非難をしないこと。（クリエイティブな競技の為、主観的な審査基準が適用されることもある）
- t. ジャッジは自分がジャッジとして参加する競技会に自分の犬を参加させることができるが、それは自分以外の者がジャッジするクラスであること。
- u. 犬のおもちゃやターゲット、ボールなどのトレーニング用具を小道具として用いてはならない。これらの使用は失格となる場合がある。ルーチン中の小道具の使用で、犬の振る舞いや態度に著しい変化が現れないこと。
- v. 本イベントの運営方法や規定などに関して疑問や質問がある場合は、本会あてに直接文書にて問い合わせることとし、その事について SNS 上において 誹謗・中傷と取られるおそれのある記事を投稿したり、議論をしないこと。
- w. セミナー内容や他者の演技等の動画、静止画の撮影、録音をしてはいけない。
- x. 故意にルール違反をしたと判断された者は3年間の DDJP 開催イベントへの参加を停止する。

個人情報の取り扱い

- a. 参加者の個人情報を本人の同意なしに第三者に開示・提供することはありません。
（法令等による開示を求められた場合を除く）

その他 FCI 国際ドッグダンス競技会規程との相違・補足

DDJP 新設クラスについて (2022/5)

現行のクラス (Novice・Intermediate・Advanced) に追加して、以下の初心者向けの 2 つのクラスを新設します。

クラス名	ルーチン タイム	Heelwork to Music (HTM)	Freestyle (FS)	モチベ ーター の携行	参加 月齢
Beginner	1'00" ～ 2'00"	左ポジション or 右ポジション or 両方のポジションでの脚 側行進 (犬は前進のみ) 動線は直線、曲線、円 (8 の字) を入れること 出来るならば歩様の速度変 化 (常歩・速歩・緩歩) が 入ることが望ましい プラスして、規定外のポジシ ョンや方向を使うのも OK だ が、採点はされない	規定のトリックから最低 3 つ選ん で入れること プラスして、規定外のトリックを 使うのも OK だが、採点はされ ない <規定のトリック> ・スピン/お回り (犬単独での 右回り、左回り) ・ウィーヴ/股ぐり (股ぐり歩 き、8 の字股ぐり * 犬は前 進) ・アラウンド (人の周りを犬が時 計回り、反時計回り * 犬は 前進) ・お手おかわり ・招呼 ・伏臥 ・ジャンプ (その場で、足飛び、 腕飛び) ・フロント (犬と人が対面した 位置)	NG	9 ヶ月と 1 日以上
Starter	1'00" ～ 2'00"	Beginner と全て同じ モチベーターの使用可 (音のなる Toy は不可)	Beginner と全て同じ モチベーターの使用可 (音のな る Toy は不可)	OK	9 ヶ月と 1 日以上

※ リング内で犬にリード(引き綱)を着けることは禁止

※ ヒールワークとフリースタイルムーブの割合は、HTM・FS 共に「75%-25% ルール」に従って構成されていること。(HTM: 最低 75% のヒールワークと最高 25% のフリースタイルムーブ・FS: 最低 75% のフリースタイルムーブと最高 25% のヒールワーク)

DDJP クラス分けについて (2022/6/1)

クラスレベルの差別化のため、現行のクラスのルーチンタイムと HTM のルーチン構成に以下の条件を追加することを推奨します。

クラス名	ルーチンタイム	Heelwork to Music (HTM)	Freestyle (FS)	モチベーターの携行	参加月齢
Novice	1'30" ~ 3'00"	1~3 ポジショ 1~2 方向 歩様の速度変化 (常歩・速歩・緩歩) を取り入れること	有害とみなされないムーヴであれば 全て許される	NG	18ヶ月と1日以上
Intermediate	2'30" ~ 4'00"	3~5 ポジション 2~3 方向 歩様の速度変化 (常歩・速歩・緩歩) を取り入れること	有害とみなされないムーヴであれば 全て許される	NG	18ヶ月と1日以上
Advanced	3'00" ~ 4'00"	6~8 ポジション そのうちのいくつかは4方向 (前・後・左・右) 歩様の速度変化 (常歩・速歩・緩歩) を取り入れること	有害とみなされないムーヴであれば 全て許される	NG	18ヶ月と1日以上

※ ルーチンタイムやポジション数・方向は、あくまでも目安です。

※ 減点対象ではありませんが、出来るかぎり遵守を希望します。

1.3.7 発情中および妊娠中の雌犬

→ 入場が認められる会場においてのみ 全競技終了後に競技することができる。

1.3.8 外観の変化

→ 日本国内では競技可能

1.6 犬の装飾品と小道具

→ 犬の毛色に沿ったラッピングペーパーは使用可

3.1.5 犬のリング入退場

(参照「3.1.3 リード(引き綱)」リング内で競技中にリード(引き綱)を着けることは禁止)

→ 首輪を持つ等 犬の動きを物理的に制御して入退場することを禁止。

3.2 失格

ハンドラーが明らかにルーチンをトレーニングラウンドに変えた場合。(音楽は最後まで継続する)

→ 競技を棄権したり途中でやめることは出来るが、採点された後でその競技の取り消しは出来ない。競技を途中でトレーニングラウンドに変える場合は、ジャッジに向かって明らかに分かるように止める旨のサインをだすこと。

3.3.5 「個人」戦における同点

→ コンペの合計点が同点の場合

1位が同点の場合は、再演技によって席次を決める。

「HTM」競技の2位以下が同点の場合は、以下の優先順位で得点が高かったペアを上位とする。

- ① 動物福祉 (Animal welfare)
- ② 内容 (Content)
- ③ 表現 (Presentation)
- ④ 芸術的解釈 (Artistic Interpretation)

「フリースタイル」競技の2位以下が同点の場合は、以下の優先順位で得点が高かったペアを上位とする。

- ① 動物福祉 (Animal welfare)
- ② 表現 (Presentation)
- ③ 内容 (Content)
- ④ 芸術的解釈 (Artistic Interpretation)

FEDERATION CYNOLOGIQUE INTERNATIONALE (AISBL)

Place Albert 1^{er}, 13, B – 6530 Thuin (Belgique), tel : +32.71.59.12.38, Internet : <http://www.fci.be>

FCI

REGULATIONS FOR FCI INTERNATIONAL DOG DANCING COMPETITIONS

FCI 国際ドッグダンス競技会規程

このルールは Dog Dance Japan によって翻訳されました。
この翻訳版を使用される場合は、
特に「項目 3 一般規定、失格、審査票」
「項目 4 ヒールワーク・トゥ・ミュージック (HTM) とフリースタイル」
部分の遵守を希望いたします。

2020 年 4 月 15 日

注意： 自然人を指す用語は、性別・数を問わず適用される。

内 容

1 FCI ドッグダンス競技会の管理、参加者および審査	4
1.1 FCI ドッグダンス公式競技会の開催 (FCI 国際競技会および FCI ワールド/セクション・チャンピオンシップ)	4
1.2 FCI ドッグダンス競技会に関する国内規程	4
1.3 FCI 国際イベントへの参加資格	4
1.3.1 FCI 国際競技会の参加資格 (個人競技)	5
1.3.2 FCI ワールド/セクション・チャンピオンシップの参加資格 (個人および団体戦)	5
1.3.3 健康.....	6
1.3.4 アンチドーピングおよびワクチン接種の規則	6
1.3.5 攻撃性.....	6
1.3.6 手荒な扱い	6
1.3.7 発情中および妊娠中の雌犬	6
1.3.8 外観の変化	7
1.3.9 去勢または避妊犬.....	7
1.3.10 犬の検査.....	7
1.3.11 FCI 審査員	7
1.3.12 スチュワード	8
1.4 保険.....	8
1.5 ハンドラーの義務.....	8
1.6 犬の装飾品と小道具	8
2 現場の準備と設備	9
2.1 競技リングのサイズ	9
2.2 ランニングオーダー:くじ引きの録画と公開.....	9
2.3 スコアシート.....	9
3 一般規定、失格、審査票	10
3.1 ハンドラーの一般規定.....	10
3.1.1 音楽.....	10

3.1.2	小道具の準備と撤去.....	10
3.1.3	リード（引き綱）.....	10
3.1.4	指示.....	11
3.1.5	犬のリング入退場.....	11
3.2	失格.....	11
3.3	採点.....	12
3.3.1	表現（ Presentation ）.....	12
3.3.2	内容（ Content ）.....	12
3.3.3	芸術的解釈（ Artistic Interpretation ）.....	13
3.3.4	動物福祉（ Animal welfare ）.....	13
3.3.5	「個人」戦における同点.....	13
3.3.6	「団体」戦における同点.....	13
3.3.7	予選と最終ラウンドのスコア.....	14
4	ヒールワーク・トゥ・ミュージック（HTM）とフリースタイル.....	14
4.1	ヒールワーク・トゥ・ミュージック（HTM）.....	14
4.1.1	「理想的な」ヒールワーク・ポジションの定義.....	14
4.1.2	技術的難易度.....	14
4.1.3	ヒールワーク・トゥ・ミュージック（HTM）のポジション.....	14
4.2	フリースタイル.....	18
4.2.1	技術的難易度.....	18
5	FCI-インターナショナル・チャンピオン・タイトル(犬).....	18
5.1	FCI-インターナショナル・ドッグ・ダンシング・フリースタイル（FS）証書（FCI-CACID Freestyle）.....	18
5.2	FCI-インターナショナル・ドッグ・ダンシング・ヒールワーク・トゥ・ミュージック（HTM）証書（FCI-CACID HEELWORK TO MUSIC）.....	19
5.3	FCI インターナショナル・ドッグ・ダンシング・ヒールワーク・トゥ・ミュージック・チャンピオン・タイトルFCI-C.I.D.(HTM)と FCI インターナショナル・ドッグ・ダンシング・フリースタイル・チャンピオン・タイトルFCI-C.I.D.(FS).....	19

この規程の目的は、ドッグダンスの分野に参加することによって、オーナー、トレーナー、およびハンドラーが自らのスキルをさらに発展させ、拡張することを奨励することである。規程は、すべての犬種が同等の立場で競技でき、犬の福祉が保障されるように設計されている。

ドッグダンスの目的は、犬とハンドラーが音楽と組み合わせられ、自発的で良く働く犬とそれを支えるハンドラーとの間の明らかな協力関係を提示する芸術的ルーチンを考案して実行することである。この分野に関わる訓練は、犬のハンドラーに対応する意欲を高め、結果として日常生活における全体的な行動が改善する。訓練された犬は、犬および飼い主、ひいては社会一般の飼い主の受け入れに貢献する。

この国際規程は、各国が独自の規定と独自性を維持しつつも、国際競技会では共通の一連の規則を提供するように設定されている。

この規程は、ドッグダンスのスポーツを促進し、国境を越えた競技を促進するためにまとめられた。

1 FCI ドッグダンス競技会の管理、参加者および審査

1.1 FCI ドッグダンス公式競技会の開催 (FCI 国際競技会および FCI ワールド/セクション・チャンピオンシップ)

各 FCI 加盟国は、どのクラブや団体が FCI ドッグダンス公式競技会を開催することが出来るか決定する。FCI 国際競技会は、FCI の承認を得なければならない。

1.2 FCI ドッグダンス競技会に関する国内規程

この規程に加えて、ホスト国の規定と規則を守らなければならない。しかし、国際競技会では、国際規程が優先される。各国国内統括団体 (NCO) の競技会は、国内規程の下で開催することができる。

1.3 FCI 国際イベントへの参加資格

ハンドラーは FCI の各国国内統括団体に所属するクラブのメンバーでなければならない、自国で競技する資格がなければならない。

FCI 国際ドッグダンス競技会がドッグショーと併設して行われる場合、犬がドッグショーに参加する必要はない。これは、FCI ワールド/セクション・チャンピオンシップおよび FCI 国際競技会のいずれにも適用される。

これらの競技会に出場する全ての犬は、FCI の各国国内統括団体または FCI が特定の同意書に署名した団体 (AKC、CKC、KC) に登録されていないなければならない。

犬は各科目 (ヒールワーク・トゥ・ミュージック、またはフリースタイル) に 1 回しか出場することができないが、同じ競技会で両方の科目で競技することが許される。

1.3.1 FCI 国際競技会の参加資格（個人競技）

通常の FCI 国際ドッグダンス競技会に参加する資格（登録、クラブ会員資格等）は、犬が代表する各国国内統括団体の規則と、競技会が行われる国の規則によって定義される。

しかし、FCI 国際競技会に参加する犬は、少なくとも 18 か月齢でなければならない。各国国内統括団体は、犬の FCI 国際競技会における競技を可能にするために、国内でどのドッグダンスクラスを認定するか決定する必要がある。犬とハンドラーのペアは、自国で最高のクラスで競技する資格を獲得しているべきである。

1.3.2 FCI ワールド/セクション・チャンピオンシップの参加資格（個人および団体戦）

各国国内統括団体は、ペアのチャンピオンシップへの参加適性を評価する責任の下、犬をエントリーする。ペアの名前を挙げることにより、各国国内統括団体は、各ペアの犬がチャンピオンシップイベントの環境下で問題なく対処するのに十分な経験を持っているかを評価する責任を持つ。FCI ワールド/セクション・チャンピオンシップに参加する犬もまた、少なくとも 18 か月齢でなければならない。参加するハンドラーは、14 歳以上でなければならない。各国国内統括団体は、ハンドラーの資格に関してさらなる制限を設けることができる。

ハンドラーは、自身が国籍を有する国または法的居住地を有する国を代表して競技しなければならない。一人のハンドラーがある国を代表して競技し、その後別の国の代表になる場合は、新しく代表する国の国内統括団体および FCI ドッグダンス委員会の許可を得なければならない。異議がある場合、FCI ドッグダンス委員会が異議の対象となるすべてのデータのヒアリングを行った後、最終的な決定を下す。

国内統括団体にドッグダンス委員会がない場合、その国内統括団体が承認すれば、国内統括団体以外のドッグダンス団体が FCI チャンピオンシップに参加することが許される。

FCI チャンピオンシップへのエントリーは、FCI の各国国内統括団体が提出しなければならない。主催者は、各国国内統括団体のエントリー期限を通知しなければならない。期限を過ぎた後もまだ空きがある場合、主催者は、国内統括団体以外の「犬とハンドラー」のペアを受け入れることができる。この無所属のペアの成績は、代表チームの最終成績決定の際には考慮されない。

「団体戦」にエントリーする代表チームは、最低 3、最高 4 の犬とハンドラーのペアで構成されなければならない。代表チームの成績は、「犬とハンドラーのペア」上位 3 ペアの得点の合計で決定する。この段階で、2（代表）チームが同点の場合、4 番目のメンバーの得点が考慮され、団体戦の順位が決定する。この段階でもなお同点の場合、同点の場合の対応（参照：3.3.6 「団体」戦における同点）が適用される。

各科目の FCI ワールド/セクション・チャンピオンシップの前回優勝者が自国の代表チームに入っていない場合、その者は国内統括団体によって処分を受けていない限り、自身の犬とともに「個人戦」に参加することが許される。その者の得点は、自国代表チームの得点には含まれ

ず、「個人戦」のみに有効である。自国代表チームの一員として選考された場合は、その限りでない。

1.3.3 健康

伝染病、感染症にかかっている犬、鉤虫、疥癬、その他害虫がいる犬は、FCI 国際ドッグダンス競技会に参加することはできない。

1.3.4 アンチドーピングおよびワクチン接種の規則

所属国および競技会開催国の規則に従い、国内予防接種規則およびアンチドーピング規則を遵守しなければならない。これらは競技会開催国のウェブサイトに掲載されるべきである。

1.3.5 攻撃性

攻撃的な犬は競技施設に入ることができない。競技中（自身の演技前、演技中、または演技後）のいかなるときも、犬が人や他の犬を噛んだり、噛もうとしたり、攻撃したり、攻撃しようとした場合、審査員長は犬を失格にする。事件はその犬のワーキングブック（所属国で提供されている場合）に記載され、演技がすでに完了していてもすべてのポイントを失う。複数日にわたって行われるイベントの場合、失格はその日以外にも該当し、そのため犬は競技できない。

事件は最終成績に記録され、犬が所属する国内統括団体と開催国の国内統括団体に報告書を送付されなければならない。以上の措置に加え、国内規則が遵守されなければならない。

1.3.6 手荒な扱い

競技中（自身の演技前、演技中、または演技後）のいかなるときも、犬に罰を与えることを禁じる。体罰はもちろん、犬に攻撃的な態度で叫ぶことも同様に禁じる。審査員は、ハンドラーが口頭または物理的に犬を虐待しているかどうか判断する。これがルーチン中に発生した場合、審査員は演技を中止することができる。自身の犬を虐待したハンドラーは失格とすべきである。犬に対する虐待の疑いがある場合は、ヘッドスチュワードに報告されるべきであり、ヘッドスチュワードは状況を審査員に知らせる。

1.3.7 発情中および妊娠中の雌犬

発情中の雌犬は、FCI 国際競技会および FCI ワールド/セクション・チャンピオンシップで競技することが許されるが、競技会の最後に競技する。それらは、他のすべての犬がルーチンを完了するまで、競技施設およびその周辺から離れたところに置かれなければならない。雌犬が発情中である場合、できるだけ速やかに、最低でも朝のブリーフィングまでに、主催者に通知されなければならない。

妊娠した雌犬は、FCI 国際競技会および FCI ワールド/セクション・チャンピオンシップで競技することはできない。

競技日の前 75 日以内に出産した犬も除外されなければならない。

不明確な場合、ハンドラーは獣医による証明書を提出するよう求められることがある。各国国内統括団体は、雌犬の参加資格についてさらに制限を設けることができる。

1.3.8 外観の変化

断尾または断耳された犬、または美容上の理由で外観が変化した犬は、犬の所属国および競技会開催国の法規に則っている場合のみ認められる。犬の外観の変化による規制は、国内規則に明記され、その国のウェブサイトに記載されるべきである。

1.3.9 去勢または避妊犬

去勢または避妊された犬は競技することができる。

1.3.10 犬の検査

必要に応じて、審査員長は、競技会開始前にリングの外で犬を確認するべきである。必要とみなされた場合、審査員長は、追加的に獣医師の診察を要求することができる。国の規程により、すべての犬が獣医による検査を必要とする場合がある。犬の健康が競技することによって危険にさらされる可能性があると判断された場合、審査員長は、犬の参加を認めるべきではない。

1.3.11 FCI 審査員

すべての FCI 国際競技会およびチャンピオンシップには、3 名もしくは 5 名の審査員による委員会が構成される。FCI 世界選手権では、5 人の審査員が望ましい。審査員全員の結果がカウントされる。審査員団の 1 名が審査員長に任命される。審査員長は審査員チームの議長として機能する。

競技中にこの規程で扱われていない事件が発生した場合、審査員長は進行方法や事件をどのような判断するかを決定する。審査員長は、決定を下す前に、審査委員会と協議することができる。審査員の決定は最終的なものであり、競技者は審査員の決定に異議を唱えないものとする。

FCI 国際ドッグダンス競技会の審査員は、ドッグダンスを審査するために十分な訓練を受け、自国の国内統括団体からライセンスを受けていなければならない。

FCI 国際ドッグダンス競技会では、審査員は、最低 2 年もしくは 15 回の審査経験が必要であり、FCI ワールド/セクション・チャンピオンシップでは、最低 3 年の審査経験が必要である。

各国国内統括団体はこれらの要件を満たす審査員リストを作成する。FCI 国際競技会を主催するクラブは、審査員所属国の国内統括団体のリストから、各審査員の資格を確認するべきである。FCI 国際審査員は、特に別段の定めがない限り、FCI 公式 4 言語のうち 1 つで意思疎通が可能でなければならない。この情報は、審査員が所属する国内統括団体を通じて入手可能でなければならない。

偏重の可能性による資格停止： 国内規則は、偏重の可能性による資格停止について定める。

FCI 国際競技会および FCI チャンピオンシップでは、FCI の資格停止の規定に従わなければならない。

FCI 国際競技会および FCI チャンピオンシップの審査員は、可能であれば、少なくとも 1 年前に主催国によって審査するよう招聘されるべきである。

1.3.12 スチュワード

競技会にはチーフスチュワードが任命されなければならない。チーフスチュワードは、競技会を開催するためのすべての要求事項（リング、審査票等）に対して責任を負う。

1.4 保険

FCI は、このドッグダンス規程の適用によって生じたいかなる損害についても責任を負わない。

競技会主催者は、保険契約をすることによって、または他の手段を通じて、競技会における不測の事態に備えなければならない。

ハンドラーは、スポーツ傷害をカバーする有効な保険に加入していなければならない。ハンドラーおよび/または犬の所有者は、自身および自身の犬に起因する損害について責任を負う。

1.5 ハンドラーの義務

ハンドラーの義務は、競技施設に入場したときに始まり、表彰式の後、会場を離れるときに終わる。

すべてのハンドラーは、規定、規則、およびチーフスチュワードの指示に従わなければならない。

ハンドラーには、最高の行動および適切な服装が期待される。

ハンドラーが規則に従わなかったり、不適切な行動を取ったりした場合、失格となることがある。

競技リングの設置中または設置後は、ハンドラーは、権限を有する者（チーフスチュワードまたは審査員長）の許可がない限り、自国の指定されたトレーニング時間を除いて、犬を伴って競技リングに入ることは許されない。

1.6 犬の装飾品と小道具

犬がリング内で首輪を着けずに演技することは非常に歓迎される。リング内では 1 つの首輪のみ許される。首輪には装飾を施すことができるが、犬の肩を超えるべきではない。

必要に応じて、ハーネス、コート、口輪等をリング外で装着することができるが、口輪を使用する場合、犬が自由に飲んだり呼吸したりできるものでなければならない。

スパイクまたは電気カラーおよび他の同様の抑圧装置または手段は禁止する。この制限は、競技会の開始から終了まで有効である。

犬の視界を確保するため、長毛犬（頭部）にゴム製のヘアバンドを使用することは許される。ヘアバンドは、主に犬の可視性を改善することを目的とし、装飾とみなされるべきではない。

グリッターやヘアカラーで犬を装飾することは禁じる。

犬に服を着せることは禁じる。

ハンドラーが自身の小道具を設置したり撤去したりしない場合、ハンドラーは、リング内に小道具を設置および/または撤去する助手を帯同する責任を負う。

アリーナに提示されたすべての小道具はルーチンの演技に不可欠でなければならず、犬によって使用されなければならない。ルーチンの主な焦点は、常に犬に向けられていなければならない。小道具やハンドラーの衣装によって犬の影を薄くするべきではない。

2 現場の準備と設備

2.1 競技リングのサイズ

FCI ワールド/セクション・チャンピオンシップ競技会は常に屋内で開催されるべきである。

FCI 国際競技会は、主催国が認める場合、屋外で開催することができる。

リングの大きさは 20m×20m で、印が付けられる。これは、しっかりした「板」または、ロープ、テープ等、何らかの境界でも良い。リングの大きさと配置は、競技会全体を通して一定でなければならない。

演目は、障害物のない場所で演じられなければならない。また、競技リングは、障害者や移動に制限のあるハンドラーにもアクセス可能でなければならない。

2.2 ランニングオーダー:くじ引きの録画と公開

予選ラウンド（1日目 HTM、2日目フリースタイル）と決勝（3日目）の演技順のくじ引きをビデオに記録し、すべての参加者が簡単にアクセスできる形式（YouTube や Vimeo、または公式ウェブサイトなど）で公開すること。

同じ日に2つ競技する選手（例：予選に2匹の犬、または1匹の犬が両方の決勝戦、またはその他の可能な組み合わせ）の場合、ランニングオーダーで少なくとも5組は空けること。

2.3 スコアシート

スコアシートは競技者に手渡される。

3 一般規定、失格、審査票

3.1 ハンドラーの一般規定

参加者は、常に、審査員、助手および他の参加者に対して礼儀正しくなければならない。競技会前、競技会中、競技会後の不適切な言動は、失格および/または会場への出入り禁止の対象となりうる。

ハンドラーは、審査員長の許可後、リングに入ることができる。

3.1.1 音楽

音楽の長さは4分を超えてはならない。最大時間を超えた場合、減点される。超過時間が15秒を超えると、音楽は停止され、競技者は失格となる。

ルーチン中に音楽が停止した場合、競技者はルーチンを最後まで演じる機会を与えられなければならない。不具合の原因が、主催者側が使用している音楽である場合、ハンドラーのバックアップを使用することができる。審査員は、音楽が止まった時点から採点を続ける。

ルーチン中に音楽が停止した場合、ハンドラーは、ルーチンを最後まで演じず、音楽停止前に演じた部分のみで審査されることを選択することができる。

技術的な問題の解決に時間がかかりすぎる場合、審査員は、ハンドラーをリングから退出させ、後で改めて入場するように決定することができる。この場合、審査員は競技者に進行方法を通知する。

音楽が開始されないという問題が発生した場合も、審査員は、ペアを退出させることができる。

ハンドラーは、いつ音楽を開始して良いか、明確に示す。

ルーチンは、音楽が始まると開始し、音楽が終わると終了する。犬とハンドラーのどちらも、ルーチンの最初から最後までリング内にいなければならない。

FCI 国際競技会および FCI ワールド/セクション・チャンピオンシップのルーチンは、4分を超えてはならない。

3.1.2 小道具の準備と撤去

小道具/装飾品の準備および撤去は、合計3分(2×1.5分)以内に行わなければならない。この時間を超えた場合、失格の対象となりうる。時間は、リングスチュワードによって管理され、遅延は審査員に通知される。

3.1.3 リード(引き綱)

リング内のリード(引き綱)の使用は認められない。

可能であれば、主催者は、次に演技する犬が単独で準備することができる別の待機場を提供すべきである。

リード（引き綱）は、リングに入る前にリングスチュワードに渡される。

3.1.4 指示

指示は、声符、ジェスチャーおよび/または体符で与えることができる。犬は常にハンドラーに反応するべきである。犬とハンドラーの調和したチームワークがルーチンを通して維持されている限り、サインの量は重要ではない。

3.1.5 犬のリング入退場

リング入退場時、ハンドラーは犬を抱いて運ぶことができる。小道具で犬を運ぶことはできない。ルーチンを開始する前に、犬は地面に置かれ、自発的にスタートポジションを取る必要がある。ルーチン終了時、犬がハンドラー（腕、背中、脚など）上にいるときは、リングから出る前に犬を地面に降ろす必要がある。

3.2 失格

以下の項目に該当する場合、失格の対象となる：

- ・ 申請と異なるハンドラーまたは犬が参加している。
- ・ 審査員を欺こうとする行為。
- ・ 不正。
- ・ ドーピング規定を遵守していない。
- ・ **食べ物やモチベーターとなる物をリングに持ち込む。（例：おもちゃ、クリッカーなど）**
- ・ リング内にフードを持ち込む。
- ・ 犬が制御不能でリングを離れる。犬が作業継続中に誤ってリング外に出た場合、減点される。
- ・ 犬がリング内で排尿したり排便したりした場合。
- ・ ハンドラーが明らかにルーチンをトレーニングラウンドに変えた場合。（音楽は最後まで継続する）
- ・ 手荒な扱いは、いかなる形態（口頭もしくは物理的）も容認されない。
- ・ 犬が会場やショーのグラウンドで別の犬や人を攻撃した場合。
- ・ リング内で競技中にリード（引き綱）を着けている。

- ・ダブルハンドリング – リング外からの補助。
- ・犬をコントロールするために接触する。ハンドラーが自ら犬に触ることは許されない。犬から行うべきである。

3.3 採点

これらの規定は FCI 国際ドッグダンス競技会および FCI ワールド/セクション・チャンピオンシップに適用されなければならない。

3.3.1 表現 (Presentation)

表現
9 点満点
協力
流れ
応答性
コマンド/指示
当日の表現
動作の正しい履行

このセクションの減点の対象： 過度の吠え

3.3.2 内容 (Content)

内容
9 点満点
犬への焦点
ルーチンの構成
リングの使用域のバランス
リングの広範囲の使用 (犬のサイズによる)
ルーチンを興味深くし、しかも詰め込み過ぎない、動作量のバランス
動作の多様性
個々の動作の難易度
動作間の移行/つなぎ – ばらばらな動作の連続でない

このセクションの減点の対象： フリースタイルの動作またはヒールワークの正しい量、音楽が長すぎる、犬に衣装を着せる、小道具をほとんど使用しない、および/または使用しない小道具がある。

3.3.3 芸術的解釈 (Artistic Interpretation)

芸術的解釈
9 点満点
構想の可視化
音楽が犬のペースと動作パターンに合っているか
区切り/切替わり (音楽の表記)
適切なハンドラーの動作。ハンドラーの動作は犬のパフォーマンスを高めるべきである
ルーチンは音楽の感情を反映しているか
音楽の適切な使用

このセクションの減点の対象： テーマに関連性のない小道具、ファミリー・オーディエンスに適さないルーチン。

3.3.4 動物福祉 (Animal welfare)

動物福祉
3 点満点
ルーチンは、犬の質 (犬種、性格、身体能力、精神能力等) を強調しているか
犬の健康と安全
パートナーシップ

このセクションの減点の対象： 不適切な扱い、配慮に欠ける小道具の使用。

3.3.5 「個人」戦における同点

トップ 11 位までの犬に同点があった場合は、**区別をつける必要がある**。それより低い席次の犬の場合、**同点を回避する必要はない**。

トップ 11 位のいずれかの場所で 2 匹以上の犬が同点だった場合、「動物福祉」のポイントが高い犬が優先される。それでも同点の場合は席次を分ける。

決勝戦で 1 位に 2 匹以上の犬が同点だった場合、ヘッドジャッジが判断する。

3.3.6 「団体」戦における同点

ヒールワーク・トゥ・ミュージック (HTM)

「HTM」競技で 2 チームが同点を獲得した場合、「動物福祉」の得点が最も高いチームが優先される。それでもまだ同点の場合、「内容」の得点が最も高いチームが優先される。それでもまだ同点の場合、「表現」の得点が最も高いチームが優先される。それでもまだ同点の場合、「芸術的解釈」の得点が最も高いチームが優先される。

フリースタイル

「フリースタイル」競技で2チームが同点を獲得した場合、「動物福祉」の得点が最も高いチームが優先される。それでもまだ同点の場合、「表現」の得点が最も高いチームが優先される。それでもまだ同点の場合、「内容」の得点が最も高いチームが優先される。それでもまだ同点の場合、「芸術的解釈」の得点が最も高いチームが優先される。

3.3.7 予選と最終ラウンドのスコア

各カテゴリで決勝進出を決めたチームは、カテゴリのランキングの最終順位を決定するために、(予選と最終ラウンドで)達成された両方のスコアがカウントされる。:予選のスコアと最終ラウンドは合計され、ランキングを決定するために使用される。

4 ヒールワーク・トゥ・ミュージック (HTM) とフリースタイル

4.1 ヒールワーク・トゥ・ミュージック (HTM)

「ヒールワーク・トゥ・ミュージック」(HTM)のルーチンには、最低75%のHTMの動作と、最高25%のフリースタイルの動作が組み込まれる。ルーチンを通して、犬がハンドラーから2メートル以上離れることは許されない。

4.1.1 「理想的な」ヒールワーク・ポジションの定義

理想的なHTMポジションの犬とハンドラーの距離は、一定であり、15cm以下である。犬とハンドラーのいずれもお互いの動作を制限するべきではない。犬は常にハンドラーのペースと方向に適応しなければならない。犬は、すべてのポジションで平行を維持し、横への動きでない限り、1つの軌道上のみを移動することが要求される。犬とハンドラーの距離が50cmを超えた場合、フリースタイルとみなされる。遅れたり、先行したりする犬は望ましくない。距離はハンドラーと犬の最も近い部分が測定される。犬は4本の足すべてで歩かなければならない。犬はハンドラーの両側を歩くにあたって、同じように安定していなければならない。犬は自然体で動くべきである。

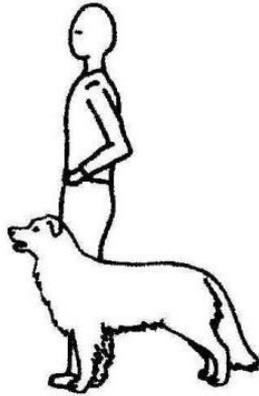
4.1.2 技術的難易度

ルーチンの難易度は、ポジションの数だけではない；それはまた、動きの方向およびペースの変化も関係する。ポジションの変更は、犬が自立してポジションを見つける能力を示す。

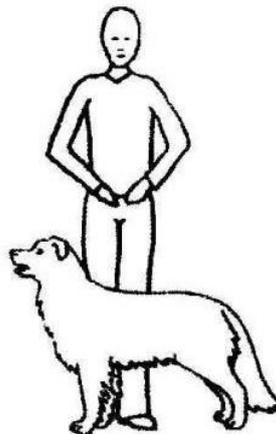
4.1.3 ヒールワーク・トゥ・ミュージック (HTM) のポジション

ハンドラーは、以下のリストから自身のポジションを選択する：

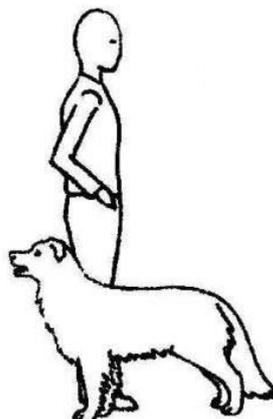
- 1: 犬の右肩が、ハンドラーの左脚（左側）の隣に、平行に位置している



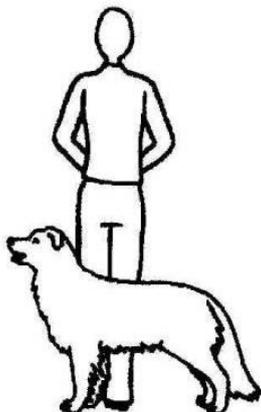
- 2: 犬がハンドラーの前に、犬の右側がハンドラーの前に来るように、横向きに立っている。犬の右肩は、ハンドラーの右脚に位置している。犬の右肩は、ハンドラーの右脚の内側、外側のどちらに位置していても良い。



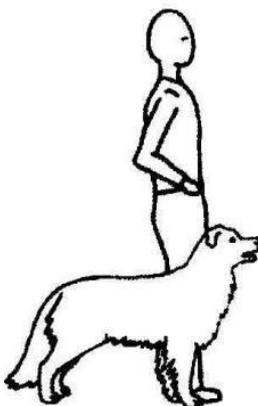
- 3: 犬の右肩が、ハンドラーの右脚に平行に位置している。犬はハンドラーの方を向いている（逆向き右側）。



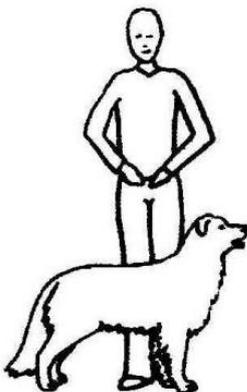
4： 犬がハンドラーの後ろに、犬の右肩がハンドラーの左脚に来るように立っている。



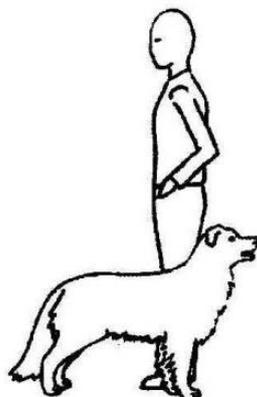
5： 犬の左肩が、ハンドラーの右脚（右側）の隣に、平行に位置している。



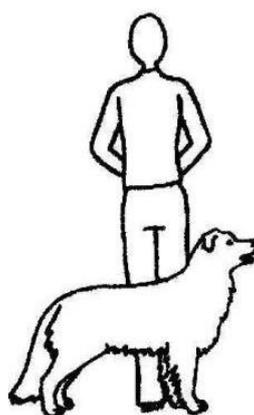
6： 犬がハンドラーの前に、犬の左側がハンドラーの前に来るように、横向きに立っている。犬の左肩は、ハンドラーの左脚に位置している。犬の左肩は、ハンドラーの左脚の内側、外側のどちらに位置していても良い。



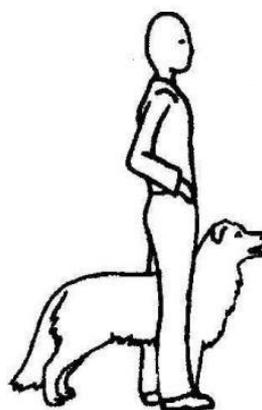
- 7: 犬の左肩が、ハンドラーの左脚に平行に位置している。犬はハンドラーの方を向いている（逆向き左側）。



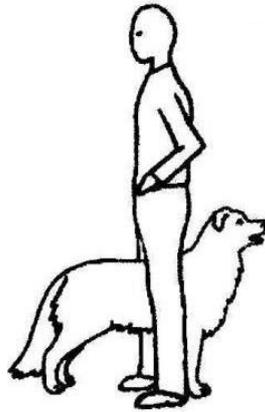
- 8: 犬がハンドラーの後ろに、犬の左肩がハンドラーの右脚に来るように立っている。



- 9: 犬が、ハンドラーの脚の間に位置し、ハンドラーと同じ方向を向いている。犬の肩は、ハンドラーの脚の位置にある



10： 犬が、ハンドラーの脚の間に位置し、ハンドラーと反対の方向を向いている。犬の肩は、ハンドラーの脚の位置にある。



4.2 フリースタイル

「フリースタイル」のルーチンには、最低 75% のフリースタイルの動作と、最高 25% の HTM の動作が組み込まれる。動作が犬の健康を危険にさらさない限り、すべての動作が許される。

4.2.1 技術的難易度

「理想的な」フリースタイルは、幅広い種類の異なる動作で構成される。動作は、音楽の変化に従って、流れよくルーチンに組み込まれるべきである。

5 FCI-インターナショナル・チャンピオン・タイトル(犬)

FCI 国際チャンピオン・タイトルの資格は、FCI 国際チャンピオンシップの規定に従って満たされなければならない。

5.1 FCI-インターナショナル・ドッグ・ダンシング・フリースタイル (FS) 証書 (FCI-CACID Freestyle)

国際フリースタイルクラスで優勝した犬は、4つのセクション（表現、内容、芸術的解釈、動物福祉）それぞれで最高のマークの 75%（6,75 p / 2,25 p）以上を獲得すると、FCI-CACID Freestyle を授与される。

および 2 席の犬には 4つのセクション（表現、内容、芸術的解釈、動物福祉）それぞれで最高のマークの 75%（6,75 p / 2,25 p）以上を獲得すると、FCI-reserve CACID Freestyle が授与される。

FCI-CACID Freestyle と *FCI-reserve CACID Freestyle* を授与された犬には、ロゼットが与えられる。ロゼットには *FCI-CACID Freestyle* と *FCI-reserve CACID Freestyle* というテキストを表示することを推奨する。

5.2 *FCI*-国際ナショナル・ドッグ・ダンシング・ヒールワーク・トゥ・ミュージック (HTM) 証書 (*FCI-CACID HEELWORK TO MUSIC*)

国際 HTM クラスで優勝した犬は、4つのセクション（表現、内容、芸術的解釈、動物福祉）それぞれで最高のマークの75%以上を獲得すると、*FCI-CACID Heelwork to music* を授与される。

および2席の犬には4つのセクション（表現、内容、芸術的解釈、動物福祉）それぞれで最高のマークの75%以上を獲得すると、*FCI-reserve CACID Heelwork to music* が授与される。

FCI-CACID Heelwork to music と *FCI-reserve CACID Heelwork to music* を授与された犬には、ロゼットが与えられる。ロゼットには *FCI-CACID Heelwork to music* と *FCI-reserve CACID Heelwork to music* というテキストを表示することを推奨する。

5.3 *FCI* 国際ナショナル・ドッグ・ダンシング・ヒールワーク・トゥ・ミュージック・チャンピオン・タイトル *FCI-C.I.D.(HTM)* と *FCI* 国際ナショナル・ドッグ・ダンシング・フリースタイル・チャンピオン・タイトル *FCI-C.I.D.(FS)* の称号を授与される。

(*FCI* 国際ナショナルチャンピオンシップの *FCI* 規程書を参照)

規程は英語で書かれた。不確実な場合は、英語の原文が他の翻訳より優先される。

この規程は、2017年4月、パリにおいて開催された *FCI* 執行委員会で承認された。

変更部分（太字と斜体の文字）は、2020年2月にチューリッヒにおいて開催された *FCI* 執行委員会によって承認された。

変更部分（太字と青字の文字）は、2020年9月4日に開催されたオンライン会議によって承認された。